



坂根春日神社 本殿

# はつかさん

第2号

発行

天津地域振興協議会  
総務企画部編集委員会

印刷

米子ワークホーム

天津の歴史を、数回に渡り掲載します。

## 天津の歴史伝承シリーズ

### No.1 「なぜ天津って言うの？」

これは、明治二十二年十月一日に境村・福成村・清水川村・阿賀村が合併し、天津村役場が福成に置かれる頃の話です。

当時の戸長（町や村で民選された長）並びに有力者が、たびたび新村の規約運営について会合されましたが、村の名がなかなか決まりませんでした。困った代表の亀尾福成戸長が相見益千賀さんに相談されたそうですが、益千賀さんも困ったあげく、「戸長の産土神（地域の守り神）は春日神社（坂根）。その祭神（神社に祀られている神様）は天津児屋根命。この神様の名前をいただいで天津村にしては。」と言ったところ全員が賛成し、天津村になったということです。編入した各村の村名は取り除かれて大字名となりました。

この話は、何分昔の話なので本当かどうか分かりませんが、有力な説だと思われまます。

#### ※天津児屋根命

天津児屋根神、天児屋神とも言います。天岩戸に天照大神が籠もられた時、その前で祝詞を読み、天孫降臨の際に邇邇尊命に付き従って日向の高千穂の峰に降臨したとされます。

#### ※天津神と国津神

一般的に、高天原に住む神と天孫に従って天降った神を天津神、天孫降臨の前から国土に生じていた神（土着の神）を国津神といいます。天照大神は天津神の代表格、大国主神は国津神の代表格です。

#### ※春日神社（坂根）

祭神は天津児屋根命・大日靈貴命・素戔鳴命。

創立年代は不詳ですが、徳川初期の文に「富田庄柏尾郷春日大明神」と書いてあるものがあります。これは、柏尾郷が柏尾・谷川・坂根の三集落に分かれる以前より祀られていたということになります。

この地方には春日神を祀る社は少なく、おそらく奈良時代か平安時代に、奈良の春日大社の神領もしくは藤原氏の荘園があり、春日大社の分かれ宮として人々がお祭りし、坂根部落が出来る産土の社としたと考えられます。

大正五年に福田神社に合祀されましたが、昭和二十二年に旧地に復して福田神社飛地境内社となっています。

また、伝説として春日大社の神鹿が神示を持って一夜の間に奈良と坂根を往復したと伝えられています。

# 集落紹介

(順次紹介します)

## 四季

グリーンタウン四季は天津地域の北部に位置しており、国道百八十号に接し、分譲が始まった当時「豊かな緑に囲まれた日々の四季のうつろいを感じさせる…」をキャッチフレーズに誕生した新興住宅団地です。

以前の地形は谷状で溜池や下方に水田が存在していたと聞いていますが、平成六年春に造成工事が開始され、東側の山を削り、谷を埋め立て、北東に緩やかな傾斜をもつ現在の住宅地が完成しました。そして同年十月には七棟が先行完成し、盛人に住宅フェアが開催されました。

その後、第一期分譲住宅地が順に整備され、二、三区画は大好評のうち年内に完売となりました。

翌年の春には第二期として分譲販売された宅地も好評のうちに販売が終了、そして世帯数の増加と共に自治会が発足、天津地域に八番目の集落として仲間入りすることになり、現在では、五十七戸、百七十数名が居住する住宅地となっています。

入居が始まりました頃は、分譲

住宅地ということもあり、道路と広場以外は公共の施設や設備は無く、夜になると回りは暗く寂しい状況でしたが、やがて自治会が結成され、環境整備に力が注がれ、防犯灯や消防器具、ゴミ置き場や倉庫などが次々に設置され、行政への要望であった、防火水槽や公民館用地の整備なども実現しました。

そして公民館建設資金の積み立てとコミュニティ助成事業(宝くじ助成)により、平成十六年十二月には住民が待ち望んでいた公民館が完成し、「四季コミュニティセンター」として運営を開始しました。



自治会発足以来長年、集会施設を持たない中、ふるさと交流センターをお借りしながらその活動を続けてきましたが、この公民館の

開設によって、より自由で盛んな活動を行うことが出来るようになりました。

また公民館の取得を契機に、地縁による団体として南部町長の認可を受け、法人格を持つ組織へと変わりました。



新興住宅地である四季では、残念ながら独自の伝統文化や風習とといったようなものは存在しませんが、地域のお祭り及び子供会の活動の場として毎年九月、谷川地区にある福田神社の例祭に、「子供みこしの奉納」として参加し、大人と子供の貴重な交流の場となっております。お祭り当日は、お隣の東西町・谷川の子供みこしと合流し町内を練り歩き、そして祭りの後の慰労会となりますが、そんな一日は地域間の親睦を深める絶好の機会にもなっています。



このように今は活発な状況の四季においても、これから少子高齢化は進んでいくと考えられ、様々な不安や問題が生じてくると思いますが、地域の組織や活動により、安心して住み良い環境が、続いていくよう期待します。



### 柏尾区

柏尾区は、鳥取県西部に位置する南部町の北部、天津地区の中央に位置し、法勝寺川流域沿いに耕地が開けている水田中心の中山間地帯です。

区の中央には荒神山と呼ばれる小山が生まれ、頂の平地には荒神さんと秋葉さんが祀られています。



荒神さん



秋葉さん

そこが戦国時代の小鷹城跡とも言われ、その城跡の麓に小鷹神社があり、若宮・今宮を合祀し「山田出雲守重直父子」の霊が祀られています。



小鷹神社

公民館敷地内には、これも戦国時代、手間山合戦に用いたという弓の双矢を蔵する薬師堂と、町指定の有形文化財「六角地藏」があります。



六角地藏

また、薬師堂前のお地藏さん二体を一番と終りの八十八番とし、

母塚山の頂きを中間地点にして、柏尾区を見守り、区の裏山を巡るよう八十八箇所先人が安置した、お大師さんと呼ばれるお地藏さんが鎮座されています。



お大師さん

さらに、前河原には子ども好きのお地藏さんだったと言われ、願いがかなった時には帚を納めたので、ホウキ地藏さんと呼ばれるお地藏さんを祀る地藏堂があります。



帚地藏

総戸数六十七戸の内、農家数は兼業農家が中心の四十一戸で、耕地の九十%は水田であり、米を基幹作物とし、中山間地、農地・水・環境保全等の対策事業に取り組みつつ、農地の荒廃化防止、美しい田園風景の保存や、農産物の高付加価値化を目指して活動を展開しています。

一方、少子高齢化や、さらには後継者不足等により、農業や集落機能・地域活動を維持することが難しくなっています。また、高度情報化や交通網の発達に伴って行動範囲は益々拡大するとともに、厳しい経済状況の中で各種競争も益々激しくなり、地域における人と人とのふれあいが希薄なものになりつつあります。

このような集落の運営上の問題として「役員のなり手」「高齢化」「住民の関心の低下」など、集落機能を維持するには十分とはいえず、なくなってきた現状です。

しかし、近年若者による会の活動が見えて現われてきており、花見・運動会・秋祭り等々集落も少しずつ活気が出てきました。

古くから伝わる伝統文化や行事、今まで培ってきた豊かな自然環境などを失わせる事の無いよう、区民皆で努力しています。

今後の予定

日にち	行 事 名
12月23日	歳末福祉餅つき会の開催
1月18日	ソフトビーチバレーボール大会
2月1日	町大会への参加
3月7・8日	天津地区文化祭

※これらの行事は予定ですので、日程等は変更になる場合があります。



昨年度の文化祭

青色防犯灯とは

平成十二年にイギリス北部の都市「グラスゴー」において、景観改善のため街路灯をオレンジ色から青色に変えたところ、犯罪発生件数が減少し注目されたものです。日本国内では、平成十七年六月に、全国で初めて奈良県内で設置されたのを皮切りに、全国で設置の動きが広がっています。

効果

青色は、心理的に人の副交感神経に作用して落ち着かせる鎮静効果があると言われており、また、視覚的には波長が短いため、広範囲を照らすことができます。青色防犯灯の犯罪抑止効果は、科学的には十分な説明はされていませんが、イギリスをはじめ、実施した多くの地域では、犯罪の減少が報告されています。

お隣の島根県内の設置状況

島根県内では平成十八年七月から設置を始め、平成二十年二月現在、県内各市町村三百二十二地区に合計五千五百九基の青色防犯灯が設置されています。

鳥取県内の状況

県内では、一部の駐輪場等に設

置されている所がありますが、地域でまとまって設置している所はまだありません。

天津地域振興協議会では

地域の防犯に対する意識向上や、防犯活動の活性化を目指し、理解の得られた集落に青色防犯灯を設置しています。

設置は、今までの白色蛍光灯を天津地域振興協議会で一斉に交換します。

地域で連携することにより、犯罪者が接近しにくいという犯罪被害の抑止効果を醸成し、各種防犯対策の第一歩として今後の活動の活性化につなげて行くことが目的です。



天津村史 (探しています)

西伯町誌の六七六ページ、第八編「生活と習俗」、第九章「伝説・民族」母塚山縁起の中に記載されています。『明治二十七年篇の天津村史』を探しています。

天津村の歴史が解る貴重な資料ですので、持っておられる方はぜひ御一報をお願いいたします。

編集後記

勤労感謝の日、車窓からの『紅葉狩り』を思い立ち、二十五年程前に奥津温泉を訪れたルートをたどって見た。路幅や線型改良で立派になった国道百八十号四十曲峠を越えたところ、山陰に雪が残っていた。この処の異常気象の流れか？この時季の降雪の記憶がない。新庄村から、合併により真庭市となった旧美甘村に差し掛かると目的の紅葉は深い霧の中で全く見えない。旧久世に入ると落合インターチェンジの看板が目に入る。かつては、京阪神方面へ向う時には落合を目指した。今は米子道等道路網の整備が進み、車での移動が速くなった。早く便利になった分、時間に追われる生活を余儀なくされている様にも感じる。たまには、のんびりと運転して見るのも良いかも知れないと思ったドライブだった。